



二十年の歩みを祝う

20周年記念事業は2012年10月7日(日)に記念式典、講演そして交歓会という形で結実しました。しかし、その準備は、2011年12月の第1回記念事業準備委員会に遡ります。会員がガイドの機会を得るには、アイセスを多くの宿泊施設や外国人に知ってもらうことが大切と考えて、この最初の委員会でガイド強化週間を4月と10月に実施し、記念紙も発行することが決定しました。それから、祝会・講演担当班、ガイド強化キャンペーン班、記念誌編集班が季節の変化と競いながら、知恵を出しあい大きな事業の具体化に献身的に邁進しました。会員のチームワーク度を数字で表すと春期キャンペーン参加者37名、秋期38名、記念誌寄稿者15名、講演当日のアイセスの参加者はほぼ50名。培ってきたおもてなしの心で協力しあうアイセスの頼もしさの現れでしょう。

講演は、高田良信法隆寺長老、森郁夫帝塚山大学考古学博物館館長、菅谷文則榎原考古学研究所所長のお話で、総参加者250名はとっておきの話題に充実のひとつときだったのではないのでしょうか。講演の後の交歓会では初代会長、村田浩氏のスピーチに設立当初のご苦勞を知って、20年の歩みに感謝の気持ちを新たに、次の10年を引き受けていくのは現会員一人一人だと実感しました。

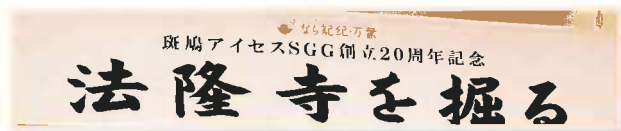


アイセス誕生から20年
写真で見る式典・講演会



左：中宮寺日野西光尊門跡寄贈
右：生花担当班の作品

講演者(上左から)：高田良信法隆寺長老・森郁夫帝塚山大学付属博物館館長・菅谷文則榎原考古学研究所所長 / 講演のタイトル(下)



斑鳩ホール式典・講演会聴講受付風景



式典・講演会開始を待つお客様

本年度も各方面のご支援と会員の皆さまの活動のおかげで多大な成果を挙げました。特に本年度はアイセスの創立20周年の節目にあたり、皆さまと一緒に創立20周年事業を実施いたしましたことは大きな喜びです。

記念事業におけるシンポジウムでは法隆寺学で著名な帝塚山大学附属博物館館長・森郁夫様、檀原考古学研究所所長・菅谷文則様、法隆寺長老・高田良信様をお迎えし非常に活発な討論を展開され多くの参加者を楽しませていただきました。又、多くの来賓のお客様方にはアイセスの創立20周年を祝福していただきました。改めて御礼申し上げます。

一方、創立20周年を記念しガイドキャンペーンを実施しました。春季キャンペーンでは261名の外国人を、秋季キャンペーンでは179人の外国人をご案内し大きな成果を上げることが出来ました。これはひとえに会員の皆さまの積極的なボランティアガイドへの取り組みの賜物と感謝しております。キャンペーン期間以外でも、日々、iセンター内観光案内所、JR法隆寺駅観光案内所や、特に法隆寺南大門前で外国人観光客に声をかけ、例年以上のガイド実績を上げることが出来ました。

斑鳩町の中学校における英語による案内学習の支援活動(7年目)やJETRO(現貿易研修センター)による小学校における外国の教師との交流事業への通訳支援(2004年から継続実施)も恒例行事として地域への貢献活動として定着してまいりました。

上記のようにアイセスの活動は以前にもまして活発になった様に思えますが、反面アイセスに在籍しながらほとんど活動されていない会員が結構多くおられることも事実です。ボランティア団体ですからそれぞれが自由意志で参加されることは否定できませんが、折角外国人に対しガイドをしたいと言う思いで参加したのですから「より多くの会員がより多くのガイドを出来る」事を目指して行きたいと思えます。

会員の皆さまには是非とも会が企画する各種行事・定例会に積極的に参加していただき、組織内のコミュニケーションの向上を図りたいと思っておりますので、よろしくご協力お願いいたします。

法隆寺・中宮寺をお客様に案内するときには「IKARUGA ICES SGG」のIDカードが役立ちますが、斑鳩以外のお寺など案内するとき、JNTO バッジがIDカードの代わりにします。ただし、入園無料のサービスが受けられるかどうかチケット売り場で確かめてくだ

ーロめも
ガイド お役立ち

さい。アイセスでは1年以上会員在籍している方にJNTO バッジの登録を勧めています。

また、奈良方面のガイド依頼があったときは、交通費と昼食はお客様の負担としています。

斑鳩アイセスSGG活動

平成24年	主な活動内容
4月 1日	14日まで、春季ガイド強化期間（キャンペーン）を実施
22日	平成24年度斑鳩アイセスSGG総会 久富氏が日本政府観光局(JNTO)から長年国際交流に貢献したことにより表彰される 初めての試みとして定例会終了後、各月に班長会を開く
5月 27日	定例会 20周年記念事業について
6月 19日	斑鳩南中学校3年生全員に法隆寺について講義（小川）
24日	定例会 益田氏による学習発表「インド仏教聖地を訪ねて」
26日	斑鳩南中学にて英語科先生と町立中学共通の法隆寺学習用テキストを編集
29日	貿易研修センター一行法隆寺参拝後、斑鳩小学校での通訳（アイセス計15名）
7月 1日	記紀万葉県民支援活動事業に応募し活動計画をプレゼンテーションする（小川）
7月 9日	斑鳩南中学校3年生法隆寺現地学習の116名（アイセス16名）
10日	斑鳩中学校3年生全員に法隆寺について講義（小川）
12日	斑鳩中学校3年生法隆寺現地学習169名（アイセス22名） 奈良県ボランティアガイド連絡会出席（小川）
22日	平成24年度の予算承認のための臨時総会
9月 9日	定例会 20周年記念事業役割分担決定
28日	斑鳩南中学校事前学習（アイセス11名）
10月 7日	斑鳩アイセスSGG創立20周年記念式典・講演会・交流会
8日	21日まで、秋期ガイド強化期間
19日	斑鳩南中学校現地学習（アイセス8名）
10月 28日	定例会 20周年記念事業報告
11月 20日	斑鳩中学校事前学習（アイセス11名）
25日	定例会 20周年記念事業反省会
28日	飛鳥ボランティアの会主催奈良県ボランティアガイド研修会にアイセスから5名参加
12月 5日	斑鳩中学校現地学習（アイセス9名）
16日	定例会 帝塚山大学非常勤講師甲斐弓子先生 「法隆寺ゆかりの女性たち」
1月 27日	定例会 鈴木氏による学習発表「広く浅くガイドの視線」
2月 21日	奈良朱雀の会主催奈良県ボランティアガイド研修会にアイセスから11名参加
24日	定例会 昨年度ガイド活動強化キャンペーンのまとめ
3月 24日	定例会 今年度のガイド活動強化キャンペーンの説明
28日	奈良県ボランティアガイド連絡会出席（小川）



先生たちと編集した両中学校
共通ガイドテキスト



記紀万葉県民活動支援事業に応募し採用され、
ちらしや記念誌に事業ロゴを取り入れる



20周年記念寺業式典にて、小川氏挨拶



甲斐弓子先生
「法隆寺ゆかりの女性たち」

記念事業ア◇ラ◇カ◇ル◇ト

アイセス誕生から20年 記念事業委員会

20周年記念事業委員会は会議を重ね、記念式典及び交流会当日の役割分担を詳細に決めました。10月7日、当日は約50名の会員が柔軟な対応力を発揮し作業を行いアイセスの大きな事業を成し遂げました。

事業委員は以下の方々です。(敬称略)

- 事業委員長 : 小川勝 (総括)
副委員長 : 久富喜美子 (式典・講演統括)
 : 中野栄作 (キャンペーン担当)
委員 (キャンペーン): 加藤重臣、佐藤武、
 瀬戸川真理子、北原文代、
 (講演会) : 藤本勢津子、安田暉子
 (記念紙) : 岡本昇、瀬戸川真理子
 (広報・会計) : 北原文代

アイセス会員は右のような役割を積極的に引き受けました。(敬称略)

I. 式典・講演会

- 1 招待状・プログラムなどのアレンジ・挿絵・作成:
久富・安田・井上(あ)・藤本
- 2 生花(前日): 吉田・矢澤・久富
- 3 荷物置き場担当: 東・古川
- 4 垂れ幕張り: 池田・磯江・岡本
(主としてホール側が作業担当なのでその手伝い)
- 5 椅子だし(230脚): 東・井上(こ)・井上(あ)・井戸・
今井・磯江・池田・梅田・小山・岡本・岡・岡野・
加藤・片岡(の)・片岡(ま)・北野・小菅・小西・佐藤・
穆文英・中野・益田・松本ひ・宮城・山口
- 6 講師接待 : 藤本・宇治
- 7 来賓及び一般受付: 安田・中谷・服部く・柊
- 8 会場案内 : 片岡ま・富本

II. 祝賀交流会

- 1 準備(テーブルなど): 安田・藤本・寺西・服部き
- 2 受付(会員) : 寺西・服部き・松本い

アイセス誕生から20年 ガイド強化キャンペーン

ガイド強化キャンペーン班の佐藤さんのまとめより以下の点を抜粋しました。

【目標】

1. 斑鳩アイセスの存在をより多くの人に知ってもらいガイド活動につなげることで、外国人が日本文化を知る機会を提供する。
2. 多くの会員がガイドの機会を得る。
3. 研修を実施してガイドのレベルアップを語る。

【結果】

- a) 強化期間中、会員同士の共同作業がよかった。
- b) 春は観光シーズンと合致してお客さんが多くガイド実績に反映された。
- c) ゲストハウスは好意的で、チラシなど積極的におかせてくれた。
- d) ガイドする事への意欲が沸き自信につながった。

	春 季	秋 季
キャンペーン期間	2012/4/1~4/14	2012/10/8~10/21
ガイド参加者数 (人)	37	38
ガイド参加回数 (半日単位) (回)	185	154
1日当たりの平均参加者数 (人)	13	11
期間中の総ガイド件数 (件)	109	89
外国人数 (人)	261	179
日本人数 (人)	51	86

数字で見るガイド強化キャンペーン期間の活動

- e) スキルアップ研修には毎回15名程度の参加者があった。
- f) メディアへの広報活動は全く取り上げてもらえなかった。

【今後に】

- a) 強化ガイド期間は2週間が妥当か。
- b) より効果的なアイセスPR方法がないだろうか。
- c) 参加者に参加回数をどの程度求めるか。

【2012年度退会者】(敬称略)

小川住江、岡野圭壺、片岡直美、鎌田純子、北原文代、郷宗貞、瀬戸川真理子、高橋信夫、中西紀子、益田隆市、松本美和子、森本隆晴、山崎律子

【2012年度入会者】(敬称略)

磯江憲夫、石井晋也、資延真弓、多賀仁美、谷本佳代、辻本有哉、前田晃、森本隆晴

記念事業ア◇ラ◇カ◇ル◇ト



アイセス誕生から20年
写真で見る交流会



たくさんのお客さまが出席して
くださいました。ありがとうございました。



交流会も終わり、会場で記念撮影。急ぎの用事で早く帰られた方々、一緒に撮れなくて残念でした。

班活動で斑鳩町立公民館を利用したいときの予約の仕方です。直接使用したい公民館に行くか、電話で予約をとります。その際、「アイセスの予約」として部屋の予約をとります。会場の費用は、利用1週間前には**必ず**立て替え支払いをします。支払い領収書をアイセス会計に提出して支払額を請求します。斑鳩町の公民館電話番号は右の通りです。

斑鳩町中央公民館 0745-74-1511

斑鳩町東公民館 0745-74-4122

斑鳩町西公民館 0745-75-3911

なお、斑鳩町生き生きプラザ1階広場は予約する必要がありません。会場費もありません。ちなみに、

役員会はいつも生き生きプラザを利用しています。

一口メモ
公民館の予約の仕方

法隆寺発掘を通して出会った三人の論議をまとめました

コーディネーター
高田良信法隆寺長老



高田長老は発掘現場を見学するのが大好きで2人の考古学者との出会いも発掘を通してでした。まず、森先生との出会いは法隆寺の新しい事務所建設予定地を発掘したときでした。森先生を始め発掘者が発掘現場で、太子が飛鳥小治田宮まで馬で通っていた道を復興したいと語っているのを聞いた長老、それじゃ、すぐに歩きましょうと森先生たちを急かせて実行に移しました。部分的に分かっていた道と土地の人が伝承して大事に世話をしていた道などをもとに法隆寺と飛鳥を結ぶ太子道が決定されました。その後、聖徳太子の廟のある磯長ルートも復興されて、法隆寺ファンに人気のある2月22日と11月22日に行われる「太子道を訪ねる集い」として今日に続いています。太子没後千三百六十年祭の法要時には「いやがる森先生に無理無理に衣装を着せてねえ」と長老はいたずらっぽく楽しそうに話しました。

一方、菅谷先生との出会いは菅谷先生が末永先生から西円堂の鏡の調査を引継がれたときでした。昭和57年4月26日に海獣葡萄鏡が発掘され法隆寺はメディアを通して脚光を浴びようになりました。けれども、お寺は長老が子供のころにはすでにお坊さんの数も少なく儀式などが省略化されていたので、なんとか復興したいと考えていたところ、菅谷先生から西円堂の鏡奉納を復興してはと勧められ、先生のアドバイスで平安時代の鏡の複製を奉納する行事を復興しました。その後も菅谷先生はじめ奈良文化財研究所や博物館の協力のもと修正会も復興しました。昭和の大修理が終わって落慶法要を行うときには当時はまだ学者が法要に参加するようなことが難しい時代に菅谷先生に頭をまるめて参列してもらいました。

その後、防災工事のための発掘では森先生が関わっている奈良文化財研究所と菅谷先生の橿原考古学研究所と一緒に作業をしましたが、長老は文字通り両者のコーディネーターとなりました。このときの発掘調査でも長老はいたずら心を発揮して、実相院前を調査していた菅谷先生のグループを驚かせました。発掘調査員たちは新羅の瓦を発見して考え込みましたが、菅谷先生はさすがに「やったなあ。」と長老のいたずらを見破りました。というのも、このころは長老は子供の頃から集めていた瓦を森先生の博物館に寄贈した後で、瓦が身の回りにはないのは本当に「さみしゅうて」新たに韓国、中国の瓦を入手していました。長老の告白、「百済の瓦を置くと若草伽藍からでたものと思い取り上げられては難儀なので新羅の瓦を置きました。」

長老はお寺の宝物を毎年テーマごとに集めて展覧会を開き宝物のリスト作りを始め昭和57年に「昭和資材帳」を完成させました。

文化庁から派遣されて
森郁夫先生



森先生は文化庁から派遣されて初めて法隆寺の宝庫に入ったとき、子供の頃からなじみのある絵を見て驚きました。お母さんが読んでいた婦人雑誌の付録で見た絵は、今は大宝蔵殿に入っすぐ左にある和田英作画伯の「金堂落慶之図」でした。金堂壁画を太子が見ている構図は森先生の想像を膨らませ、きっと若草伽藍にも西院伽藍と同じような壁画があったにちがいないと期待しましたが遺物は発見されず、その後昭和50年代の防災工事の発掘の時にも発見されませんでした。ところが2004年に斑鳩町教育委員会が南大門の東南を発掘していたときに壁画片が60片ほど出土して、若草伽藍に壁画が描かれていたことが証明されました。「触

「っちゃだめです」と言っても衣を着て発掘現場に座り込みつい触ってしまう長老のこと、百万塔がぎっしり詰まった木箱が書庫から発見されたことなど先生は発掘当時を振り返りました。

防災工事時では文化庁の計画図通り発掘すると実相院の北向きのあたりで掘立柱の柵がでてきて若草伽藍の西の限りだということが分かり、続いて東西方向の柵と思われるものが出て北限の柵だということも分かりました。文化庁の計画にはない箇所を掘るのは違反だけれども柱間の計算をして検討をつけた一カ所を掘ると柱跡がでて北限の柵と西面の柵が直角であることが確認できたとき、森先生は自分たちで出した計算もたいしたものだったけれど、飛鳥時代のきっちりし方向感もすばらしいものだと呼びました。

若草伽藍跡の瓦の発掘でとても大きな発見は軒平瓦に型板を留めるために小さなピンで開けた穴を発見したことでした。文様をつける技術は型の上からなぞって文様をつけるための型板からスタンプへ、そして原型に押しはめる型押しへと展開しましたが、型押し瓦が出土した斑鳩宮は643年に滅びていることから推し量ると、型をなぞる技術はそれ以前の制作年代のものであり、若草伽藍建立時に考えだされた世界最古の軒平瓦の文様技術だということが分かったと森先生は解説をしました。

末永先生の後をついで
菅谷文則先生



発掘する場所の風俗、習慣を知ることが文化財の研究には大事なことと考える菅谷先生は、今も生きている宗教であるお寺のお坊さんたちの動き方をよく見たくて、「法隆寺 承仕任命書」という辞令を長老からいただき、自身は頭をまるめ半僧半俗の承仕職（明治時代にはまだあった僧侶の階級で、学問をする学侶、金堂で

は行をできない堂方、そして承仕）を体験しながら長老の堂内の歩き方をメモに取りお堂の使い方を学んだと言います。貴重な体験と長老の著書「法隆寺子院の研究」は発掘には欠かせない先生の宝物で長老のサインがある本は手あかがつく程見ていると言います。

長老の言葉を借りると北京大学留学時の「すっかり土地に同化して中国人になってはった」菅谷先生は、土着の言い方が標準語に置き換わっている昨今の言葉事情に苦情を呈しました。「檀原」と書いて「かしわら」、「川原寺」と書いて「かわらでら」と読む大和音便がパソコンでは出てきません。西大寺は「さいだいじ」であって「さいだいじ」では異邦人になった気分になるといいます。

日本書紀の記録に百済の瓦博士や露盤博士がやってきたという記述から飛鳥寺は百済の技術だという既成概念があり、すぐ後に建てられた若草伽藍も百済系と思われるけれども、発掘の現場と過去の記録を照らし合わせて再考すると先生には疑問に思えると言います。西院伽藍は細殿あたりから若草伽藍にかけて横たわっていた若草尾根を削るという大規模工事の上に建てられていますが、若草伽藍は今より4メートル高い位置に建っていたと考えられ、発掘された金堂や塔の周辺の溝と言われているものが「全部飛んでしまう」ことになり、若草伽藍の心礎は百済系ではないと先生は考えています。

また、初期仏教は舍利信仰だったという説が定着していますが、火災で金堂の仏像を持ち出したという記録はあるけれど塔の仏像を持ち出したという記録はなく、東大寺のことだけれど平安時代の貴族たちは金堂を拝んだと記録に残されていることや、重要なものほど後ろに置くと考え、若草伽藍の建物の位置からも奥にある金堂の仏像を拝んでいたと考えられると言います。「研究し考える原点である法隆寺からこれからも学ばせてもらおうと思っています」と先生は締めくくりました。（文責：井戸）

斑鳩アイセスSGG活動

2012年度は20周年記念事業の一環として、ガイド強化のためのキャンペーンを春季秋季に実施し、駅、アイセンターそして南大門で会員同士が連携しガイド数を増やすことに大きく貢献しました。会員のチームワークの賜物といえます。一方、予約ガイドはインターネット利用による問い合わせが多くありましたが、実際には利用してもらえなかったケースも多く、確実に予約に結びつくのは、知人や近隣の人たちから紹介されたものだったと、予約を担当した北原さんは一年間を振り返っています。日々、地に足のついた活動を知っていただくことで、人の縁を広げるというやり方に目新しさはありませんがとても大事なことです。団体ガイドを振り返っても、毎年アイセスを利用してくださる団体が知り合いの他の団体に紹介してくださり、今年はずっと利用いただいたケースがありました。地道な活動で人のつながりを広げていく「繋がり力」の確かさを実証した一例です。

2012年度団体ガイド実績 (10名以上の予約ガイド)

日時	団体名	人数(日本人含む)	ガイド人数
5月12日(土)	岸和田国際親善協会(英語)	17人	4人
6月29日(金)	貿易研修センター海外教職員招待(英語)	11人	4人
	引き続き斑鳩小学校との交換会に通訳として参加(英語)	11人	12人
7月9日(月)	斑鳩南中学校法隆寺案内学習(日本語)	116人	16人
7月12日(木)	斑鳩中学校法隆寺案内学習(日本語)	169人	21人
10月19日(金)	斑鳩南中学校法隆寺案内学習(天理大学留学生6人含む)(英語)	25人	8人
10月27日(土)	同志社女子大学国際交流センター(英語)	14人	2人
11月20日(火)	国立民族学博物館一行(英語)	16人	4人
11月21日(水)	生駒市英会話サロン(英語)	18人	4人
12月5日(水)	斑鳩中学校法隆寺案内学習(天理大学留学生7人含む)(英語)	27人	9人
1月26日(土)	大阪御堂筋ロータリークラブ一行台湾人(中国語)	23人	4人
3月7日(木)	シュタイナー学園一行(日本語)	24人	4人
3月9日(土)	奈良・中国帰国者支援交流会一行(中国語)	63人	7人
3月10日(日)	JICA研修生(東南アジア各国からの研修生)(英語)	16人	3人
3月15日(金)	横浜シュタイナー学園一行(日本語)	13人	3人

テレビで斑鳩アイセスの活動が放映されていて、その終わりに法隆寺の英語ボランティア募

集がありました。奈良テレビに電話して連絡先を調べてもらいました。会員になって、外国の方に満足していただける案内ができる日が来ることを祈りつ

アイセス会員になりました
ハ尾鈴子さんにインタビュー

つ自分なりの資料を作り覚えしました。斑鳩中学の生徒と法隆寺を案内する行事には2度参

加してありますが、まだまだ戦力にはなれない状態です。これからも頑張りますので今後ともよろしくお願ひします。

斑鳩アイセスSGGの概略

設立 : 1992年10月
 会長 : 小川勝
 会員数 : 68名(2013年3月末現在)
 会員年齢層 : 20歳から80歳
 活動実績 : 約2500人のお客様にガイド(日本人1000人を含む)

[編集後記]

班長会や20周年事業企画から生まれたガイド強化キャンペーンなど新しく試みた活動は次期どのように進展していくのか楽しみです。

発行責任者

斑鳩アイセスSGG
 会長 小川勝
 事務局
 法隆寺iセンター内
 電話 : 0745-74-6800
 ファクシミリ : 0745-75-9090